越谷市市民活動支援センター機関紙

Vol.18
2018年7月

ななサポ

ななサポこしがや

活動の拠点 / 交流の場 / 市民活動の相談 / 学習の支援 / 情報収集と提供 / 文化の向上 / 観光・物産情報の提供

越谷市市民活動支援センターでは7つのサポート(ななサポ)を行っています。

発行:越谷市市民活動支援センター　住所:埼玉県越谷市弥生町16-1越谷ツインシティBシティ４階、５階　URL:http://koshigaya-activity-support.info/
Eメール:info@koshigaya-activity-support.info　市民活動支援センター:TEL.048-969-2750 FAX.048-969-2751　中央図書室: TEL.048-969-1800
利用時間:午前9時～午後9時30分(図書室午前9時30分～)　休所日:年末年始(図書室のみ休室日別途有)

QRコード

特集 音楽 音があふれる 楽しいまち 越谷

今年は越谷市の市制施行60周年。20周年の際にはそれを記念して「越谷市の歌」が作られました。歌詞は一般から募り、その中から決められ、越谷市が水と緑と太陽にあふれて発展していく様子が歌われた行進曲風の明るい曲です。また、越谷国際交流フェスティバルやクリスマスナイトなど、葛西用水ウッドデッキ周辺で行われる催しや越谷駅前で開催される様々な催しの中にも音楽の要素が盛り込まれていたりと、音楽をとおしてのまちおこしが行われています。

そこで今回は、「音楽」にスポットをあてて越谷を楽しいまちにしようと奮闘するみなさんにお話をうかがってきました。

■おともサークル「Rhyme」の成田さん(右)と遠藤さん(左)

おともサークル「Rhyme」 成田 美智恵さん

歌う心や体を動かす楽しさを伝える

おともサークル「Ｒｈｙｍｅ」(ライム)では子育てをしながら演奏活動を行っている二人が中心になって、音楽の楽しみを伝えたいと親子向けの音楽講座を行っています。代表の成田さんはサークルを立ち上げる前から市民活動団体の子ども会指導者クラブ「フレンズ」での活動経験があり、市民活動自体は馴染みのあるものでした。普段は仕事として音楽に携わっていますが、市民活動としても音楽活動を発信していきたいと思い、おともサークル「Ｒｈｙｍｅ」を立ち上げました。

「音」と子どもたちだけでなく、お母さん同士も「おともだち」になってもらいたいという想いからとって「おとも」。「友達同士の輪＝サークル」とし、「Ｒｈｙｍｅ」は日本語で「韻」という意味。人が重なっていき、また新しいものが生まれればという願いを込めた団体名だそうです。「コンサートにはまだ入れない小さな子どもとお母さんたちに向けた音楽体験講座を支援センター等で開催し、まずは音に親しんでもらいたいと思っています。そして、いずれ参加者から「私たちにも何かできないか」とそれぞれの特技で活用したり、仲間同士で新しい輪を作ったりして違うものが生まれていくことが理想です」と成田さんは語ります。

■中央市民会館での演奏

■「音のおはなし会であそぼう」の様子

生の音へのこだわり

サークルの主目的は「生の音に触れてもらう」こと。そのため、企画を行う際はテーマを決めて(鍵盤楽器、膜鳴楽器など)季節の歌や動きを考えているそうです。「子どもたちは純粋で、聴いたことのない音、楽器に対してとても良い反応をしてくれる。生の音を聴いて子どもたちが反応した所から、動きや言葉を引き出し、その体験と時間を親子で共有できる活動を提供できたらと思っています」と力強く語っていただきました。

最後に、今後の目標や夢をお伺いしたところ、「子どもやお母さん方に音楽に触れてもらう場を提供しつつ、いずれ子どもが大きくなったときにもっと深く音楽に興味を持ってほしい。音楽が振興してずっと良いものが残っていくためにも、早い時期からのきっかけ作りが重要と思う。そういったことが長く広くたくさんの人に伝わったらいい・・・」と思いを巡らせていました。

お知らせ!!

日　時：平成30年 9月9日(日)　10時から15時
場　所：越谷市市民活動支援センター、越谷駅東口駅前ロータリー

夏休み自由研究イベント

「市民活動ってなんですか？2」～市民活動体験ノートを作ろう～

参加費無料 要申込み

小学生向け市民活動体験イベントを今年も開催します。あなただけの「市民活動体験ノート」を作って夏休みの自由研究に活かしましょう。スタンプラリーもあるよ!

日　時：平成30年 8月20日(月) ①10時～12時 ②13時～15時(2部制)
場　所：越谷市市民活動支援センター活動室
対　象：小学生（保護者同伴可）　定員：各回30組

KSB7 「積み重ねた経験が音になる」

木内 牧子さん

センターまつりにて発表

越谷にはAKB48ならぬKSB7というユニークな合唱団があります。越谷にハーモニーを届けたいと、代表の木内牧子さんはKSB7を立ち上げました。名前の由来はもちろん、立ち上げ当時大流行していたAKB48から。越谷（KOSHIGAYA）のK、SINGのS、ババアのB、立ち上げの初期メンバー数の7をとりKSB7としました。現在は14人で活動しています。毎週の練習成果を公民館の文化祭や市民活動の発表会で披露。協働フェスタやセンターまつりにも参加し協働のまちづくりの一翼を担っています。

ほとんどのメンバーが合唱だけではなく、様々な趣味の活動やボランティアを経験しているそうです。そういった歌以外の経験が歌に磨きをかけるのだとか。「ただ歌を歌う人だけの集まりではなく、引き出しが多く価値観の同じメンバーに恵まれたことがKSB7の強みになっています。今までの活動が無駄ではなかったと思います。」と代表の木内さんは語ります。KSB7のユーモアあふれるセンスと歌のハーモニーは今日も越谷市を元気にしています。

KSB7の皆さん

原点となった音楽

今年1月に行われた第10回協働フェスタでは市制施行60周年とも重なり、コミュニティ推進協議会との共催で行われました。その際、KSB7とサンシティ市民合唱団が主になり総勢50名ほどでベートーヴェンの第九が歌われました。木内さんは「大勢の方に聴いていただいて大成功でした。協働のまちづくりの推進という協働フェスタの意味とも合致した催しだったと思います。積み重ねてきたものが形になった感動的な瞬間でした。」と振り返ります。

木内さん自身、そして、メンバーのほとんどは40年以上合唱活動を行っています。第九を歌ってから合唱にやみつきになったそうです。第九はメンバーの合唱を始めるきっかけであり、いわば原点と言えるでしょう。その第九を成功させたときの感動は格別であったに違いありません。KSB7はこれからも「音」を原点に越谷を豊かにする活動を続けます。

近々の活動として、7月21日中央市民会館にて第2回チャリティコンサートを行います。

練習の様子

M.V.C.S（ミュージック ボランティア コーディネイト スクワット）

越谷市立病院でのボランティア演奏会

越谷市立病院で行われる音楽ボランティアの演奏会をご存じでしょうか。

取材で訪れた日はボサノバの演奏が行われており、周りを見渡すと身体でリズムをとりながら耳を傾けている人もいました。ダブルベース、グランドピアノ、クラシックギター、ドラムによるハーモニーは軽快でありながらもしっとりとなめらかで心地よい気分になります。

この活動が始まったのは今から約14年前。生の演奏を聴くことで少しでも治療のプラスになるのではないかという当時の院長の思いから始まり、12団体およそ300名が所属するM・V・C・Sが、毎月第3木曜日（1月は第2木曜日）に病院1階ロビーにてジャズやピアノの連弾、フルート三重奏など、様々な楽器の演奏を行っています。病院での演奏は、入院中の方や外来の方、お見舞いに来る方などさまざまな人の耳に入ります。必ずしもすべての人に受け入れてもらえるわけではない大変さはあるけれど、心癒されたい人のためにと活動が続けられています。

幼い頃から音楽が好きで、独学で楽器を学んだりバンドを結成して演奏していたこともあるというM・V・C・Sの会長。以前に慰問活動をしていたこともあり、その経験から越谷市立病院でのボランティアの運営を引き受けたそうです。開催回数や曲順など、最初は試行錯誤を何度も繰り返して今に至ったのだとか。音楽の魅力を尋ねると「演奏する人も聴く人も楽しむことができるところ。音楽を聴いているときは曲に集中して他のことを忘れられること。さらにその時間を自分でつくることができること」だとおっしゃっていました。また、「自分が楽しまなくちゃ聴いている人も楽しめない」と、編曲やアレンジをして個々の楽器が輝くようにしたり、お正月を病院で過ごす人のために1月には琴の演奏をしたりと、聴く人や演奏する人のことを大切にしています。

身近にあふれている音楽。けれど、生の演奏を聴くことができる機会は意外と少ないように思います。いつもとは違った音楽を聴いたり、演奏する人や新しい曲と出会うことで、新しい自分を見つけられる。そういう機会があることは素敵だなと思います。

KID Record

音にこだわるレコードレーベル
KID（キッド）：越谷ストリーム インタラクティブ ディビジョン

第10回協働フェスタ（中央市民会館にて今年1月開催）の中で、音楽活動をする若者に向けて行われた「ポピュラーミュージックコンテストin協働フェスタ」。人気楽曲「越谷葱音頭」や音楽ユニット「タンク☆ポップ」等で知られる越谷のレコードレーベル「KIDレコード」と、協働フェスタ実行委員によって生まれたコンテスト形式のイベントでした。

今回の優勝／準優勝のアーティストはCDの全国発売も決まりプロデビューという夢を叶えようとしている一方で、市内の若者からの反応は少なく、イベント自体は課題の残るものになったとKIDレコード・プロデューサーの関潤也さんとエクゼクティブディレクターの森下進さんは言います。「応募者は5組と想定より少なかったけれど、賑わいも生まれたし失敗だとは思っていないんですよ。ただ、若い世代を集めるという趣旨に立ち返り、次は何ができるかを考えないと5年10年と続くイベントにはならない。若い世代にバトンを渡すために魅力あるものに変えていかないと。」と森下さん。「コンテストという形式にこだわらず、音楽でもダンスでも好きなことを一生懸命頑張っている人をクローズアップするためのイベントにしたい。」と、早くも来年の開催に向けて、KIDレコードのお二人と協働フェスタ実行委員は動き出しています。

自作の音楽やパフォーマンスをインターネットで配信できる現代、観客の顔が見えるステージはこれからますます貴重な場所となるでしょう。協働フェスタのボランタリズムとKIDレコードのプロフェッショナリズムが合わさり生まれるイベントは、今後、越谷の若き表現者たちの強い味方になるかもしれません。

■森下さん（右）「人の評価を気にせず自分のやりたい音楽をやってほしい。自分が信じた表現を築き上げていくことが大事。」
■関さん（左）「音楽はまず自分が楽しむこと。でも独りよがりにならず、自分の音楽を聴いて喜んでくれている人の笑顔をイメージして。」

中央図書室より所蔵本のご案内

60歳からいきいきと輝く音楽生活のすすめ

出版社：幻冬舎メディアコンサルティング
著者：新堀 寛己

新堀ギター音楽院を創立した著者が、「60歳を過ぎても、いきいきと輝いていたい」と感じていらっしゃる方に、音楽を生活に取り入れ、音楽を生きがいにとすることの素晴らしさを紹介しています。音楽を生活に取り入れる、とひと口に言ってもさまざまな方法があります。音楽CDを聴く、コンサートに足を運ぶ、好きな楽器を演奏する等、明日からでも始められる手軽さがあります。しかし、音楽を聴くだけなら簡単そうですが、楽器を演奏するのは難しそう、という方も多いと思います。そのような方のために、本書では、特にギターの魅力について焦点があてられています。

日本の音日本の音楽

出版社：アリス館
著者：小塩 さとみ

国や地域によって、言葉や食べ物、気候が違うように、身の回りで聞こえる音にも違いがあります。日本の音、日本らしい音とはどんな音でしょうか。この本では、日本で長い間演奏されてきた音楽を「日本の音楽」と呼び、昔から演奏されてきた伝統音楽を中心に紹介しています。曲名や歌詞に季節を感じる言葉が多く出てくるのも日本の音楽の特徴です。日本の音楽にはたくさんのジャンルがあり、いろいろな楽器が使われています。日本の音楽の歴史を知るきっかけにされてみては、いかがでしょうか。

越谷ご当地アイドル クロワッサン

越谷発のご当地アイドル・クロワッサンと、その生みの親でクロイツ・ダンスアート代表取締役の三浦祐佳さんには共通の目標があります。それは「越谷を『住みたい街No.1』にすること」。なるほど、彼女たちの揃いのコスチュームは、越谷のキャラクター「ガーヤちゃん」と同じカラーですし、オリジナルソング「KSGYこしがや」の歌詞には越谷の名所がたくさん盛り込まれています。そんな越谷愛にあふれた彼女たちが元気に歌い踊る姿を、市内で行われる様々なイベントでご覧になった方も少なくないのではないでしょうか。

クロワッサンの結成は今から3年前。メンバーは徐々に増え、現在は小学校2年生から中学校1年生までの5人で活動しています。月2回、日曜日に南越谷にあるダンススタジオ「クロイツ・ダンスアート」に集まりレッスンをするという彼女たち。取材に伺ったこの日は、5月以降に行われるイベントに向けたリハーサルを行っていました。本番さながらのリハーサルはなかなかの緊張感でしたが、それでも彼女たちはアイドル活動の魅力について「他の学年の友達ができる」「人見知りを気にしなくなった」「地域のいろいろな世代の人と知り合える」と楽しそうに語ります。

「わたしたちの歌を聞いた人たちが『越谷っていいな』と思ってくれたら嬉しいな。」『住みたい街No.1』を目指して、ご当地アイドル・クロワッサンの活動は続きます。

クロイツ・ダンスアートでの練習風景

登録団体一言コメント

どんじゃら・ほい hijikata5529@yahoo.co.jp
ベーシックトラストを育む子育て（信頼関係の構築）を柱にした親子ふれあい活動や「輝く未来の創造」と銘打ち四ヶ村緑道の花植えを継続。メンバーの主体性や自主性を育む「喜びの共有」が基本。（土方　敏子さん）

生涯青春　東彩会 qanx6ng9k@docomonet.jp
創立25年を迎える、中高年生き甲斐支援を目的とした団体です。親睦、学習、ボランティア、同好会や発表会を通じ90名の会員がハツラツとした活動を行っています。随時参加受付中。（渡辺　和仁さん）

石川一雄さんを支える埼玉東部市民の会
部落差別に基づく冤罪で「狭山事件」の犯人とされた石川一雄さんの再審を求める活動を支援しています。部落差別や冤罪などについて考え、一人ひとりの人権が守られる社会をめざします。（益子　繁さん）

健康を考える会
『生涯、寝たきりや認知症にならない生活を!!』を合言葉に、毎日の生活の中で健康を考え仲間とミーティングをしている会です。健康麻雀、カラオケ、ゴルフをし生き生きした人生を目標にしています。（奈良　篤子さん）

観光物産情報

大人の雛祭り「後の雛」

植木屋人形店の会田正三さん

昨年の重陽の節句での雛人形（撮影:生活環境研究室）

みなさんは「後（のち）の雛」という風習をご存じですか？五節句のひとつ、9月9日の「重陽の節句」で雛人形を飾り、健康・長寿・厄除け等を願う風習で、江戸時代に始まったといわれています。私自身、雛人形を飾らなくなりもう数年が経ちましたが、この秋の節句で子どもの頃に飾った雛人形を飾ることができると知り、安永年間創業・越谷雛の元祖である植木屋人形店の会田正三さんにお話しを伺いました。

埼玉県内では既に岩槻や鴻巣で行われている重陽の節句の催し。越谷では、植木屋人形店が昨年の秋に初めての試みとして店頭で雛人形を飾りました。3月の桃の節句が赤やピンクを基調にした子どもらしいイメージを持つのに対し、金屏風を背に紫色の毛氈（もうせん）の上に飾られた雛人形は、とても大人っぽく落ち着いた雰囲気を醸し出しています。この、紫色の毛氈を敷くアイデアは会田さんのご家族によるものだそうです。

「最近、古いお雛様を人形供養に出したいとか、処分をしたいという人が多いですが、重陽の節句を知って、しまっていたお雛様を飾ってほしい。」という会田さんの言葉には、人形に対する深い愛情が感じられます。近年は「大人の雛まつり」として注目されている、この古くて新しい風習を、200年以上の雛人形の歴史を持つ越谷に根付かせるため、今後も雛めぐり等を催していきたいと会田さんは仰っていました。

「『重陽の節句』は別名『菊の節句』とも云われるように、菊の花を綿で覆い夜露を染み込ませ、その綿で顔を拭くと若さを保てると言われているんですよ。」と会田さん。子どもの頃に願いを込めて家族から贈られた雛人形を、今度は自分や家族の健康を願うために飾る「大人の雛まつり」。今年の秋は、私も好きな色の毛氈の上にお雛様を飾ってみようと思います。

問い合わせ
植木屋人形店
所在地／越谷市越ヶ谷2-7-3
営業時間／9：00～18：00
定休日／月曜日
電　話／048-962-1783

編集後記

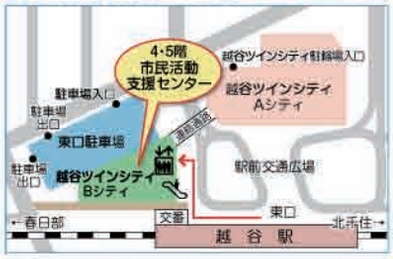
◆市内のある施設にお伺いしたとき、笑顔を絶やさず、パンを作ったり、おせんべい・小物等を売ったり一生懸命働いている方たちを目にしました。その方たちは障がいをお持ちの方たちです。垣根なく働ける場所は大切ですね。今年の春から18歳の笑顔が素敵な新人君が、自分の所属する法人にも仲間として加わりました。彼も障がいを抱えていますが、教えたことに対して前向きに何でもこなしていきます。素晴らしい新人君です。市民活動と相まってもっともっと働ける場所が増えていくと、市内にもさらに素敵な笑顔があふれていくのかなと思う今日この頃です。（IKI）

◆最近、地域への多様な関わり方のひとつとして、関係人口という言葉をよく耳にします。定住でも観光でもない関わり方をする人々のことをこう呼ぶのだそうです。越谷に通い始めて一年。他県への通勤は過去にもありましたが、仕事を通じて地域を知るという経験は初めてです。そして今年度からは本紙の編集にも携わることに。居住地とは違う愛着を越谷に抱くようになった今、私も越谷における関係人口のひとりとなったのかもしれない、そんなことを考えながら今号を編集しました。（大村）

本紙は、越谷市市民活動支援センター登録団体及びななサポ編集委員のみなさまにご協力をいただき、編集・発行を行っております。

越谷市市民活動支援センター（ななサポこしがや）は指定管理者「アイル・オーエンスグループ」が管理運営しています。

越谷市市民活動支援センターアクセスマップ



越谷市市民活動支援センターとは？
平成24年6月1日にオープンしたNPOをはじめとする公益活動をする市民や団体・ボランティアなどの活動を支援する拠点施設です

東武スカイツリーライン越谷駅下車 東口徒歩1分
駐車場:東口駐車場（有料）・駐輪場:Aシティ地下（2時間迄無料）

広告

埼玉東萌短期大学　東萌ビューティーカレッジ　武蔵野星城高等学校
保育士・幼稚園教諭・美容師の養成と単位制による通信制の課程・普通科高等学校
学校法人　小池学園
建学の精神「以愛為人」　学校訓「自尊 創造 共生」
〒343-0857　越谷市新越谷2-18-6　電話 048-987-1094

ISO 9001（品質）／ISO 14001（環境）認証取
明日の夢を創る
高元建設株式会社
代表取締役 高橋 和彦
http://www.takamoto-const.co.jp/
〒343-0811 埼玉県越谷市御殿町2番11号
TEL(048)966-1661(代) FAX(048)962-1661

越谷市私立幼稚園協会
10月15日から願書配布
11月1日から願書受付

MACS MUSIC/CULTURE SCHOOL
音♪楽♪教♪室
初心者・主婦・年配の方に安心のレッスン！
習いたい事、ご相談ください！
★ギター　月・火・水・金・土・日
★ドラム　月・火・木・金・土・日
★ヴォーカル　月・火・木
★ベース　水・金
★サックス　木・日
★トランペット　土
無料体験レッスン受付中！
★レッスン時間などお気軽にお問合せください★
TEL 048-986-8686

特定非営利活動法人 合
障害のある方にハートフルに支援していきます！！
生活介護・短期入所・日中一時支援
生活サポート・福祉用具販売、レンタル
福祉有償運送・相談支援事業
居宅介護事業・移動支援等
☎048-978-6449
越谷市千間台西2-19-12
http://www.npo-ai.com/

越谷市弥生町505－2　東武スカイツリーライン越谷駅東口（北側）高架下
TEL 048－940－5550　URL http://g-kurayashiki.com

広告募集
機関紙ななサポでは、越谷の市民活動を応援して下さる企業／団体様の広告を募集しております。
掲載をご希望の方は越谷市市民活動支援センター「ななサポ広告担当」までお問い合わせ下さい。